

1月25日
(土曜日)

大型車整備での環境変化へ対応策など共有

トラック整備 3団体 都内で技術セミナー

ローターストラックネット（滝川雅司代表）、関東トラックモニタリング協同組合（小川一弘代表理事）、全国ラック整備士テクニカルミー

大型自動車整備工場経営協議会（原秀雄会長）は22日、都内で技術セミナー（第8回）を開催。大型車整備を取り巻く環境変化への対応策などを、3団体から集まつた約120人の参加者で共有した。

基調講演で平井課長は整備業界の大きな関心事になつてゐる特定整備制度の概要を解説。大型車では衝突被害軽減制動抑制装置（自動ブレーキ）の搭載が義務付けされていることを受け、乗用車に先行して対応していくことの重要性などを解説した。



「セミナー」を開催した（写真）

続いて、大型車整備での特

定整備の影響などについて、平井課長とローターストラック

ネット技術委員会の佐藤憲司副技術委員長が対談した。

また、特定整備やOBD車

検、車検証の電子化、自動車保有关係のワンストップサービス（OSS）など、大型車

整備を取り巻く環境変化に関するさまざまな整備現

状での課題も含め、次世代整備への対応について議論を深め、情報共有を図った。

日刊自動車新聞社が記事利用を許諾しています。

掲載日 2020年1月25日 日刊自動車新聞 4面

©日刊自動車新聞社 無断複製転載を禁じます。